



令和5年5月1日 5月ちびっこの森通信 vol. 72

☆☆今月のテーマ☆☆

- ・生活リズムを整え、元気に過ごす
- ・遠足や戸外遊びなどを通して、春の動植物に興味を持つ



ひよこ組

親元を離れて不安ではち切れんばかりの気持ちで涙が止まらない日々。この先どうなるのかと随分と心配でした。しかし、こどもたちの順応性の高さは次第におもちゃへ興味関心を示し、ピアノの音に自然と手拍子で反応したり、決まった時間の睡眠などに表れてきました。お散歩はベビーカーに乗り、心地よい肌を伝わる風を感じながら流れゆく景色をつぶさに観察するなどして外気浴のお散歩を楽しんでいます。お昼ご飯も落ち着いて食べれるようになってきたので今後もよく見守っていくようにします。



うさぎ組

進級した子と不安を抱えた新たなお友だちの新年度当初は、やはり落ち着いていたとは言えません。しかし、在園児もそんな非常事態は肌感覚で分かるようで保育士顔負けする位に「遊ぼう！」と誘ってくれたりして関係構築を図っていました。その甲斐あって、みんなが朝の会などの集まりなど園生活を一緒に過ごすリズムがようやくできるようになってきたのは何よりと感じています。また、何よりの気分転換となっているのはお散歩のようで、立ち見席よろしくバギーに並んで電車見学コースや近隣のお寺境内などを清々しいそよ風の中、季節の花々や刻々と変わる景色に目を奪われたりして春を満喫しています。これから暑くなってくるので紫外線対策と脱水予防の水分補給をしながら外気浴を楽しんでいきたいと思ひます。



ぱんだ組

月齢が下の子で新たに加わった子たちの涙顔をお兄ちゃん&お姉ちゃんとして「何とかせんと！」との思いでおもちゃを差し出したリ、頭をよしよしたりして面倒を見てくれる心優しいぱんだ組。一方で、みんなは生活の基礎習慣習得の仕上げで服の着脱、食事、身支度など一人ひとりが一つでも多く出来るようになるうと日々、頑張っている姿が素晴らしいと感じています。室内では体操教室やリトミック、先日は音楽教室の刺激あるレッスンで体力や感性磨きに余念がありません。また、外遊びでは桜をはじめ、明るい春に彩りのある花々や草木などの自然の触れ合いから何かしら感じ入るものがあるようで生き生きとした表情がみなぎってくるのが分かります。これからも元気に過ごしていけるように見守っていききたいと思ひます。



～保育のポイント～

今回はソニー創業者で元幼児開発協会理事長の井深大さんの「幼稚園では、遅すぎる」の中から“どの子ども0歳からの育て方ひとつで能力を伸ばしていける”から抜粋です。バイオリンの早期才能教室で世界中の注目を集めている鈴木鎮一先生の言葉「どの子どもも育つ、育て方ひとつ」は、乳幼児期の育て方次第では、かなりの程度まで能力を伸ばすことが可能ということを示しています。所謂、「鈴木メソッド」と言われる独特の幼児教育を数十年前から続けてこれれ当初は世間の常識通り、小・中学生以上を対象にしていたそうです。すると、よく伸びる子と伸びない子の差がどうしても歴然としたそうです。そこで、先生はもっと早くやったらどうか、というわけで対象年齢をどんどん下げた結果、その差が縮小していったそうです。これはたまたま鈴木先生がバイオリニストのケースですが、これはどんな分野にも適用できるというのが幼児教育の定石となっています。先生の「能力の法則」に「能力は、生命が繰り返しの刺激に対して、善も悪も美も醜も区別なく、その生命体に能力として身につけていくもの」で脳が段々と出来る上がる乳幼児期が一番吸収がいいことも脳科学的に立証されてきています。ですから、大人の「これはまだ早い」という固定観念は捨て、いろんな刺激（音、色、感触、物、体験機会など）を与え、興味あることを見つけ、特化する環境を提供し続けることがお子さんの可能性を伸ばすことにはなっていないでしょうか？

給食だより

直立二足歩行をはじめた人間の祖先の脳は今から百万年ほど前に、四百～五百グラムから千グラムにまで進化した、その大きな要因は食べ物をよく咀嚼するようになったから、とされています。今回は(噛む)咀嚼に注目したいと思います。脳に入る運動情報は「顎」、「手」と「足」の3種類で、その情報量は足と手がそれぞれ25%に対し、顎は50%。よく噛むことは脳を活性化されると言われる所以ですね。つまり、(噛む)咀嚼は、一般的に摂食や消化機能に加えて認知機能の向上など脳の働きにも有益だということが分かってきているからなのです。まず摂食や消化機能には咀嚼で分泌される唾液により食べ物を噛みやすく、味覚を敏感にし、口を滑らかにして乾燥を防ぐ効能があります。それだけでなく、唾液の大半が免疫物質で細菌に対しプロテクトしたり、発ガン物質を減らす物質も含まれているのも重要な点と言えます。また、認知機能では、唾液は体内に吸い込まれてホルモンの働きのように皮膚、歯や口腔粘膜などの細胞を増やすことで歯を強くすることなどに寄与しています。また、食後90分後に記憶に関わる脳の部分(海馬)を刺激するホルモンが分泌され、数々の記憶を呼び覚ましてくれる、ということも分かっています。噛むことは、単に食材を味わうだけでなく有益な刺激が身体各部に行き渡り、「元気の源」となっていますので今一度、「噛み、噛む」の効能を再考し、実践することで健康に過ごしていくパワーを獲得するようにしましょう！

～今月の唄～

- ☆おかあさん
- ★こいのぼり

～行事予定～

- ・リトミック教室・・・9日
- ・身体測定・・・15日
- ・英語教室・・・16日
- ・体操教室・・・17日
- ・誕生日会・・・25日
- ・避難訓練・・・29日

